データ放送

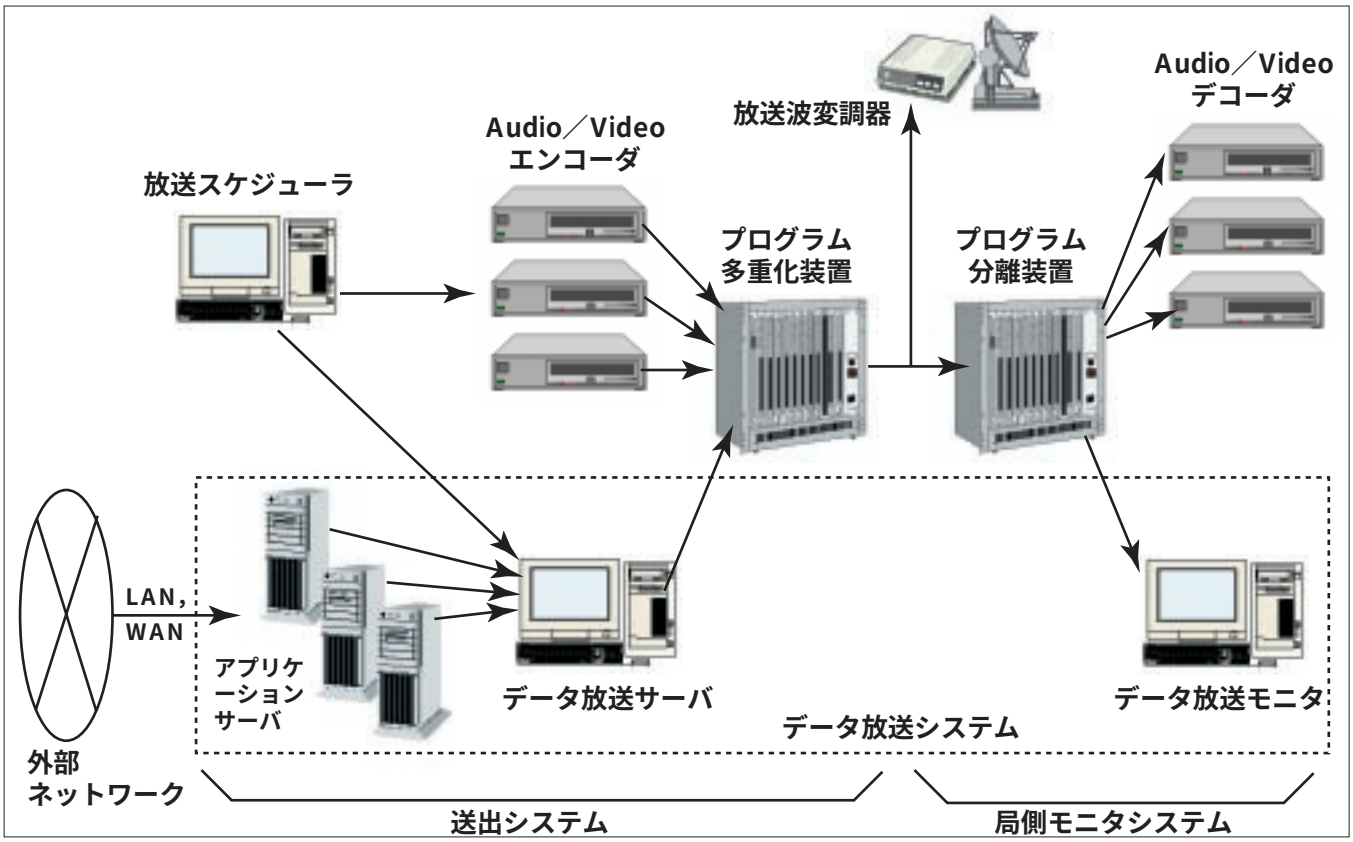
福地雄史*
虻川雅浩*
厚井裕司**

要　旨

放送がディジタル化されるに伴い，放送波を情報伝送インフラとして用いるデータ放送が注目されている。今年の12月から開始されるBSディジタル放送では，データ放送によってニュース，天気予報，株価情報といった鮮度の要求される情報やテレビ番組の補足情報などをタイムリーに視聴者に提供できるようになり，上り方向の地上回線を用いて視聴者参加型番組やオンラインショッピングのような双方向サービスが可能になる。三菱電機では，このデータ放送を実現するための放送局側機器として送出側のデータ放送サーバと，送出データの正当性をチェックするためのデータ放送モニタを中心としたデータ放送システムの開発を行った。

また，放送波をIP(インターネットプロトコル)の伝送路として用いる衛星インターネットシステムもデータ放送を用いたシステムであり，当社はCS(Communication Satellite：通信衛星)を用いた衛星インターネットシステムの開発も行った。

今後，放送と通信の融合が進み，データ放送とインターネットを融合したサービスシステムが展開されていくと考えられる。現在開発中のデータ放送システムプラットフォーム上に放送と通信を融合させた各種アプリケーションを展開していく予定である。



データ放送システム構成例

三菱電機のディジタル放送用コーデック装置とデータ放送システムの構成関係を示す。アプリケーションサーバは外部のコンテンツ編集装置等の情報を取り込むことができ，収集した情報をデータ放送サーバがデータ放送伝送方式に従った形式に変換し，放送スケジューラからの出力指示に従ってプログラム多重化装置に出力を行う。

*情報技術総合研究所　**同研究所(工博)